

令和4年6月24日
近畿運輸局
近畿地方整備局
一般財団法人関西観光本部

大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプランを策定しました ～3つの視点で地域をつなげる～

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う旅行需要の大幅減により、ここ関西においても、観光・交通事業者が甚大な影響を受けています。

この度、近畿地方整備局・近畿運輸局・関西観光本部の3者は、関西の観光・交通の回復に向け、「大阪・関西万博」を最大の好機と捉え、国が支援・実施する取組みの基本的な方向性と重点的に取り組むべき事業等について、「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」をとりまとめました。

【アクションプランのポイント】

○ 「テーマ・ストーリー」「人材」「情報」の3つの視点で地域をつなげる。

- ・ テーマとストーリーで地域をつなげる
(事業例) 淀川における舟運を活かした賑わいづくり
- ・ 人材で地域をつなげる
(事業例) 観光地域づくり人材ネットワーク事業
- ・ 情報で地域をつなげる
(事業例) 関西Ma a Sの構築に向けた取組

○ 3者が手を携え、取組効果を最大限に発揮。

- ・ 社会資本整備の実施(近畿地方整備局)
- ・ 観光・交通政策の実施(近畿運輸局)
- ・ 広域連携DMO※として取組を実施(関西観光本部)

※DMO: Destination Management/Marketing Organization の略

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

アクションプランの取組み推進により、万博の賑わいを、大阪の賑わい、関西の賑わいにつなげ、さらに、全国へと広げることで、関西から観光立国の復活を目指します。

(資料1)「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」概要版

(資料2)「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」本文

【配布先】

青灯クラブ、大阪経済記者クラブ、大手前記者クラブ、近畿建設記者クラブ

【問い合わせ先】

○アクションプラン全般に関する問い合わせ

近畿運輸局 観光部 衣川 原田 立溝

電話：06-6949-6466（直通） FAX：06-6949-6135

○インフラ整備事業に関する問い合わせ

近畿地方整備局 企画部 岡本 高橋 大國

電話：06-6942-4090（直通） FAX：06-6942-7463

○関西観光本部実施（連携）事業に関する問い合わせ

（一財）関西観光本部 総合企画室 東野 高松

電話：06-6223-5400（直通） FAX：06-6223-7205

- これまでの関西においては、観光（特にインバウンドによる旅行消費）が地域経済を牽引してきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う旅行需要の大幅減により、観光・交通事業者は甚大な影響を受けている
- 関西の観光・交通の回復に向けて、「大阪・関西万博」を最大の好機と捉え、国が支援・実施する取組の基本的な方向性と重点的に取り組むべき事業等について、**近畿地方整備局・近畿運輸局・関西観光本部の3者で「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」**をとりまとめた

Withコロナでの新しい旅のニーズに対応した取組

- (1) 旅行需要の変化を踏まえた新たな観光コンテンツ創出（魅力向上）
- (2) 持続可能な観光地域づくり（地域の取組）
- (3) 観光業の体質強化（DXの導入等）

地域住民の「**当たり前**の日常」と旅行者の「**非日常**」を両立させる好循環を実現

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指す

3つの視点で地域を「つなげる」

関西の歴史に育まれた伝統文化や自然などの地域資源を最大限に活用するため、「**テーマとストーリー**」「**人材**」「**情報**」の3つの視点で**地域を「つなげる」**

1. **テーマとストーリー** で地域を「つなげる」

サステナブル、ガストロノミー、アドベンチャー、歴史土木建築・インフラ観光、産業観光、海事観光、地域交通との連携 等

2. **人材** で地域を「つなげる」

観光地域づくりに携わるステークホルダーの人材ネットワーク構築やSDGsを踏まえたDMO人材の育成 等

3. **情報** で地域を「つなげる」

新たな移動価値を提供する「関西MaaS」の促進やデジタル技術等による観光DXの推進、メタバースの活用 等

3者が手を携え、取組効果を最大限に発揮

大阪・関西万博に向けて、社会資本整備と観光・交通に関する様々な事業を**近畿地方整備局・近畿運輸局・関西観光本部**の3者が一体となって連携・実行していくことで、その効果を最大限に発揮する。

近畿地方整備局

社会資本整備の実施

近畿運輸局

観光・交通政策の実施

関西観光本部

広域連携DMOとして取組を実施

**万博の賑わいを、大阪の賑わい、関西の賑わいにつなげ、さらに全国へと広げることで、
関西から観光立国の復活！**

大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン ～3つの視点で地域をつなげる～

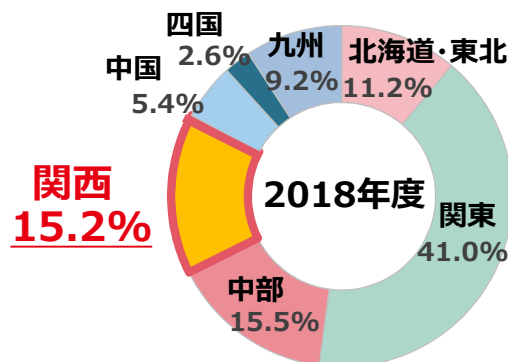
国土交通省 近畿運輸局
国土交通省 近畿地方整備局
一般財団法人 関西観光本部

コロナ禍までの関西観光

- これまで、人口減少下にある関西経済において、観光（特にインバウンドによる旅行消費）が地域経済を牽引してきた。
 - ▶ 日本のGDPに対する関西の域内総生産の割合 **15.2%**（2018年度）
 - ▶ 訪日外国人旅行消費額で全国に対する関西の割合 **28.8%**（13,873億円、2019年）
- 一方で、人気の高い京都・大阪への集中による混雑や関西への訪日旅行者数の70%以上を東アジアが占めるなどの偏りが、将来に向けた関西観光の発展の大きな課題となっていた。

【全国の地域内総生産】

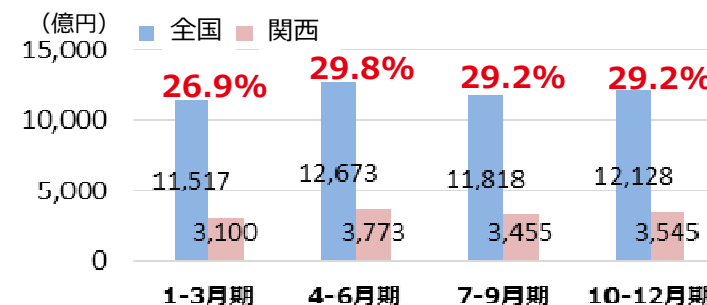
◆ 全国に対する関西の割合：15.2%



出典：内閣府県民経済計算より
近畿運輸局が作成

【訪日外国人旅行消費額（2019年）】

◆ 全国に対する関西の年間：28.8% / 13,873億円



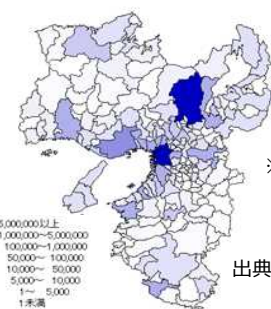
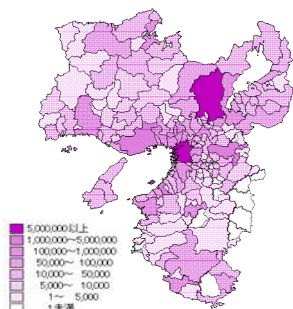
出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

【訪日外国人昼夜間滞在者分布（2019年）】

◆ 訪日外国人は、昼間の活用時間帯及び夜間の宿泊時間帯ともに京都市と大阪市に滞在者が集中している

昼間帯（10時～18時）

夜間帯（2時～5時）



※滞在者は、観光・レジャー
目的以外のビジネスや留学
目的なども含む

出典：RESAS「外国人滞在分析」
より近畿運輸局が加工・作成

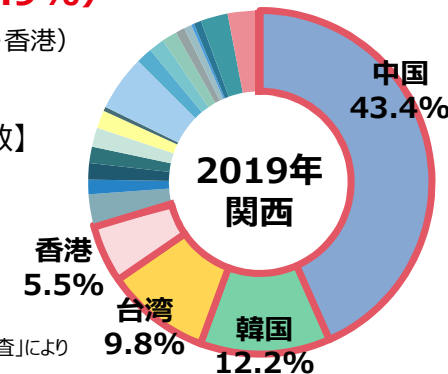
【関西の訪日外国人旅行者割合（2019年）】

◆ 関西への東アジア4カ国・地域からの訪問者数
約937万人（70.9%）

※東アジア4カ国・地域（中国・韓国・台湾・香港）

【2019年の訪日外国人旅行者数】

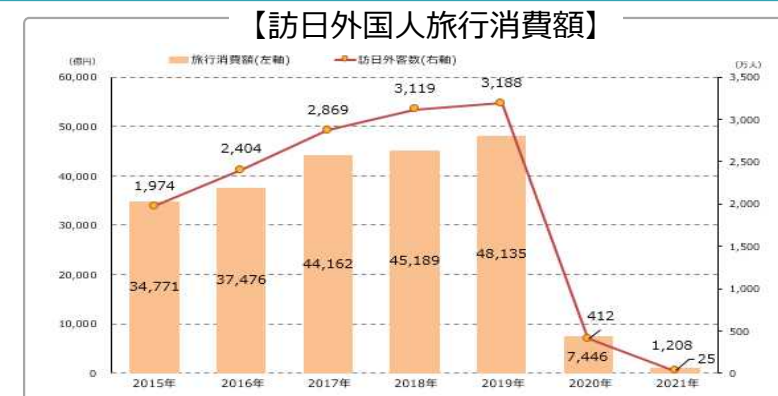
全国：3188.2万人
関西：1319.9万人



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」により
近畿運輸局が作成

現在の関西観光

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入国制限で、訪日外国人旅行者はほぼゼロとなり、また、国内でも人々の外出や移動機会が減ることによって、観光事業者、交通事業者への影響は甚大なものとなっている。
- 関西の消費縮小トレンドを食い止め、地域経済を回復させるにはコロナ禍前と同様に多くの観光客を受け入れることと、高付加価値化等によってその旅行消費を拡大させることが必須であり、そのための取組を関西の関係者が一丸となって促進していく必要がある。



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

これからの関西観光

- この先の関西では、2023年「うめきた（大阪）地下駅」開業、2023年度末完成・開業に向けて最大限努力している「北陸新幹線金沢～敦賀」、2024年うめきた2期地区先行まちびらき、そして、2025年に大阪・関西万博が開催されることから、これら大規模プロジェクトを好機と捉え、的確な取組を促進していく必要がある。
- 今般、関西の力を最大限に発揮すべく、行政・DMO・地域・企業等による連携協働体制「ONE関西」の旗印の下、関西が一体となって取り組むための基本方針「関西ツーリズムグランドデザイン2025」が2022年3月に策定された。
- そこで、国が支援・実施する取組の基本的な方向性と、重点的に取り組むべき事業等について、近畿地方整備局・近畿運輸局・関西観光本部の3者で「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」をとりまとめた。
- 大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプランに沿った様々な事業での新たなコンテンツ造成やICT技術等の活用によって、旅行需要・移動需要を創出し、旅行消費を拡大させていく。
- 約2800万人を想定している万博来場者による賑わいを、大阪から関西全域の賑わいへとつなげ、さらに全国へと広げることで、関西から観光立国の復活を目指す。

2022年

文化庁京都移転
瀬戸内国際芸術祭2022

2023年

うめきた（大阪）
地下駅開業

2024年

北陸新幹線開業予定
（金沢～敦賀）
うめきた2期地区先行まちびらき

2025年

大阪・関西万博

...

観光トレンドの変化への対応

【感染リスクを低減させるWithコロナ時代の新しい旅のニーズ】

〈例〉

- ◆ 1つの地域に滞在し、文化や暮らしを体験・じっくり楽しむ滞在型観光
- ◆ 時間と場所を分散する分散型旅行
- ◆ リアルでの訪問を避けるオンラインツアー 等

これらの新しい旅のニーズ（観光トレンドの変化）に対応して、
関西の観光回復に向けた次の取組を促進

- (1) 旅行需要の変化を踏まえた新たな観光コンテンツ創出（魅力向上）
- (2) 持続可能な観光地域づくり（地域の取組）
- (3) 観光業の体質強化（DXの導入等）

滞在型観光



様々な過ごし方を提案
【田んぼランチ】

オンラインツアー



パソコンを通じて地域の
魅力を発信

【旅のスタイル調査】



出典：旅メディア「ことりっふ」「あたらしい旅のかたち」をテーマにした調査

観光トレンドの変化に対応するための事業マネジメントサイクル体制の確立

コロナ禍によって変化している観光トレンド（新しい旅のニーズ）に的確に対応できるよう、地域の実情に合ったマネジメントサイクルを回していくことで事業の効率化や改善につなげ、事業のクオリティを高めていくとともに他地域への展開を図る。

他地域への展開を図るとともに、
さらにレベルの高い取組を目指す

結果検証
解決策検討

④

事業計画策定

- ① 事業計画を策定し、計画に沿った事業を実施
- ② 進捗状況、成功・失敗要因の分析
- ③ 結果検証により課題抽出や解決策を検討
- ④ 検討結果の反映・目標設定等の事業計画を策定

③

進捗評価

①

事業実施

②

利用者・事業者の声を収集

(1) 旅行需要の変化を踏まえた新たな観光コンテンツ創出（魅力向上）

- これまでのような多人数による旅行ではなく、密が避けられる少人数旅行に対応したコンテンツの造成
- 早朝・夜間の時間帯に現地体験コンテンツを提供することで宿泊を伴う旅行による消費の拡大
- 文化財・美術品等にライトアップや特別拝観などを組み合わせる特別感の演出による高付加価値化

(2) 持続可能な観光地域づくり（地域の取組）

- 多様な時期、時間、場所等でのコンテンツ提供による混雑の分散化及び閑散期対策の促進
- 自然環境、文化、住民生活との共存を目指し、SDGsを踏まえた地域資源の保全・再生やマナーへの意識啓発の促進
- 地域関係者が連携して、継続的に自立・自走できる観光地域づくりへの取組促進

(3) 観光業の体質強化（DXの導入等）

- 業務管理や接客、移動、マーケティング、プロモーションなど、様々な場面でIT化やDXの導入によるデジタル強化で、省力化や新たなビジネス展開等を実現
 - ◆経営改善 …… これまでの紙媒体からシステム導入による業務管理（システム化によるマーケティング）
 - ◆観光コンテンツ …… ARやVR等を活用した付加価値の向上（体験価値の向上）
 - ◆観光地域づくり …… デジタルマーケティングの実施によるデータ分析で効果的な商品開発やプロモーションを推進

さらなる地域の魅力向上を通じて、地域住民の「**当たり前の日常**」と旅行者の「**非日常**」を両立させる好循環を実現

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指す

「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指す3つの視点



国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



関西観光本部
The Origin of Japan, KANSAI

- 関西は、長い歴史と伝統文化・豊かな自然など多彩な地域資源があり、かつ、個性ある都市が利便性の高い交通ネットワークでコンパクトに結ばれている地域である。さらに、日本の玄関口の一つである関西国際空港を有し、広域周遊拠点としてのポテンシャルが高い。関西の地域資源を「点」ではなく「面」としてコーディネートしていくことが国際競争力のある観光地域として重要であることから、これら魅力ある地域資源と周遊拠点としてのポテンシャルを最大限発揮するために、「**テーマとストーリー**」「**人材**」「**情報**」の3つの視点で**地域を「つなげる」**ことで、「**住んでよし、訪れてよし**」の観光地域づくりを目指す。
- これら3つの視点で地域を「つなげる」にあたり、コロナ禍で変化している観光トレンドに柔軟に対応するため、旅行者の多様なニーズに応える新たなツーリズムの創出やデジタル技術の活用、様々なターゲット・マーケットへのアプローチを行っていく。

3つの視点で地域を「つなげる」

1. テーマとストーリー で 地域を「つなげる」

世界遺産を含む有形・無形の文化財をはじめ、暮らしに息づく伝統・生活文化、四季折々の自然、多彩な食文化、歴史的建造物（古墳・城跡・社寺等）などの地域資源を活用して、共通のテーマとストーリーで地域をつなげる。

- サステナブル、ガストロノミー、アドベンチャー、歴史土木建築、インフラ観光、産業観光、海事観光、地域交通との連携 等

2. 人材 で 地域を「つなげる」

これまで見逃されてきた地域資源を観光コンテンツとして活用していくため、観光地域づくりに従事している者、地域の魅力を良く知る者など、地域のステークホルダーの人材ネットワークを構築する。また、コロナ禍で悪化した収益を改善し、持続性のある観光地域づくりに取り組んでいけるDMOの人材を育成するなど人材で地域をつなげる。

- コロナ禍で喪失している関係者間のつながりやアップデートできていない地域情報の再構築 等

住んでよし
訪れてよし

3. 情報 で 地域を「つなげる」

コロナ禍で変容している観光行動に的確に対応するには、様々なデジタル技術等を活用した観光パラダイムシフトやメタバースの導入等を加速させる必要がある。そのために、従来とは違う新たな観光に向けて官民が一体となった「ONE関西」で取組を促進するなど情報で地域をつなげる。

- 関西MaaSの促進
- DXの推進によるXR等の導入
- 高付加価値化による高単価サービスの提供 等

大阪・関西万博は、関西の観光と交通を回復させる最大のチャンス

1970年の大阪万博以来、55年ぶりに大阪で開催される「大阪・関西万博」は、世界的な注目が高く、来場者約2800万人を想定している国を挙げて取り組む国際イベントであり、関西の観光・交通が復活する最大のチャンスとして、この好機を最大限に活用する。

～ 3 者が手を携え、取組効果を最大限に発揮～

近畿地方整備局

社会資本整備の実施

近畿運輸局

観光・交通政策の実施

関西観光本部

広域連携DMOとして
取組を実施

3 者が連携した取組の展開

2025年の大阪・関西万博に向けて、社会資本整備と観光・交通に関する様々な事業を連携・実行していくことで、その効果は最大限に発揮される。それに向けて、近畿地方整備局・近畿運輸局・関西観光本部の3者が一体となって取組を展開する。

万博の賑わいを、大阪の賑わい、関西の賑わいにつなげ、さらに全国へと広げることで、
関西から観光立国の復活！

2022年度実施事業

※2022年度に実施予定の代表的な事業を抜粋して掲載しています。

【テーマとストーリーで地域をつなげる】

世界遺産を含む有形・無形の文化財をはじめ、暮らしに息づく伝統・生活文化、四季折々の自然、多彩な食文化、歴史的建造物（古墳・城跡・社寺等）などの地域資源を活用して、共通のテーマとストーリーで地域をつなげる。

- 地域の自然・景観や遺産・資源等を適切に保護・保全しながら、旅行者にその魅力を提供可能とする持続可能な旅行商品の造成に取り組み関西広域への周遊を促す
- これまで、地域住民が意識していなかった物事や営み等を掘り起こし、観光資源として磨き上げる

《テーマ例》

環境・保全（サステナブル）、食・料理と伝統文化（ガストロノミー）、自然・国立公園（アドベンチャー）、古墳・古代建造物（歴史土木建築）、ダム・橋（インフラ観光）、酒蔵・モノづくり（産業観光）、船旅・マリンレジャー（海事観光）、鉄道・バス等乗り物（地域交通との連携）、アニメ・マンガ（サブカルチャー） 等々

【2022年度事業】

淀川における舟運を活かした賑わいづくり

【淀川流域：大阪市、高槻市、枚方市、京都市（伏見）】

淀川は古くから京都と大阪を結ぶ水上交通路として活用され、特に江戸時代に発展し流域に多くの文化が生まれた。京都・大阪は関西においての二大観光拠点であり、流域と連携した活用によって継続的な来訪や消費額拡大につなげることが可能となる。また、大阪・関西万博までに淀川大堰閘門が整備され、京都から大阪湾までの運航が可能となることから、万博会場へのアクセスも想定した京都～大阪を結ぶ淀川舟運のツーリズム化を推進する。

- 実施主体：近畿運輸局 / 近畿地方整備局 / 大阪府市 / 船舶事業者 他
- 活用事業：訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業
(地方運輸局等実証事業)



河川遊覧のイメージ

泉州地域・和歌山市の鉄道路線を活用した看板商品の創出事業

【大阪府貝塚市、岬町、和歌山市】

多様な観光メニューのひとつにマニアーツリズムがある。大阪府泉州エリア～和歌山市エリアにかけては、鉄道ファンにアピールできる沿線の魅力あふれるローカル鉄道が複数あり国内外から熱い支持を受けている（特に台湾やリピーター等）。運転体験を実施している水間鉄道・わかやま電鐵貴志川線をキーコンテンツとし、近接の南海電鉄多奈川線・加太線など単独ではアピールが難しい路線も巻き込みつつ、大阪府泉州エリア～和歌山市エリアを運行するローカル路線4線と周辺地域の観光資源を連携させたコンテンツ造成、商品開発、販路開拓を行う。

- 実施主体：KIX泉州ツーリズムビューロー / 関西エアポート
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出



列車の到着風景



実車での運転体験

日本遺産「飛鳥」を体感する体験型コンテンツ造成事業

【奈良県明日香村】

天皇の古墳の特徴でもある「八角形墳」が全国で最も多くある地域であり、天皇や蘇我氏といった権力者の古墳が集中している明日香村ならではの特徴を活かし、古墳をテーマに、「Trip Advisor」の世界の1%にだけ与えられるトラベラーズチョイスBest of Bestに認証された「sokoiko! サイクリングツアー」で周遊、日本遺産とそのストーリーを知り、ガイドや地域住民と交流しながら楽しく学ぶコンテンツ。2022年3月に新たに復元された「牽牛子塚古墳」や真の文武天皇陵説が高い「中尾山古墳」をクイズを交えながらガイドとめぐる参加者体感型ツアー。ツアーは1本の映画を見るかのように「起承転結」で展開されるストーリー性の高いもので、最後に参加者にメッセージを贈ることで感動を与えることができる。

- 実施主体：大和飛鳥ニューツーリズム
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出（文化資源連携型）



復元された「牽牛子塚古墳」



青空古墳カフェ

日本三禅宗の一つ黄檗宗の大本山「萬福寺ランタン」ナイトコンテンツ創出事業

【京都府宇治市】

インゲン豆の由来となった隠元禅師によって開創された萬福寺の建造物は、中国明朝様式を取り入れた伽藍建築群であり、23棟、回廊、額などが国の重要文化財に指定されている。これらをナイトコンテンツとして磨き上げ、関西を代表するインバウンド向けの新たな風物詩として定着させる。

- ①「萬福寺ランタン」ナイトコンテンツ創出
- ②ナイトコンテンツ創出に向けた普茶料理や中国物産などのメニュー開発・販売
- ③モニターツアーの実施・観光商品の造成・販売

- 実施主体：京都山城地域振興社 / 黄檗宗大本山萬福寺 / 宇治市観光協会
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出



中国ランタン（灯籠）



普茶料理（中華風精進料理）

人々をつなぐ京阪奈ラボ&リサーチで遊ぼう事業

【京都府木津川市、精華町】

150を超える研究・教育関連施設を保有する関西文化学術研究都市（けいはんな地区）では、研究機関と地域住民が協力して高品質野菜の開発、自動運転バスの公道実証実験など先進的な暮らしが営まれている。けいはんな地区に点在する研究施設・大学・企業等、サイエンスのコンテンツを観光資源として開発し、「東のつくば」、「西のけいはんな」として定着させ、観光商品を開発するとともに2025年の大阪・関西万博を見据えて知名度を上げる。

- ①企業訪問を観光資源にする「大人の社会科見学ツアー」のルート開発
- ②生き物観察と国立国会図書館関西館、アニメのしくみ ファミリー自由研究ツアー
- ③アンチエイジング、お茶と美 美と健康の先端を学ぶ

- 実施主体：京都山城地域振興社 / 関西文化学術研究都市推進機構
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出



大人の企業見学



子供の科学体験教室

白浜ランタンナイト・スターナイト事業

【和歌山県白浜町】

白浜を再び人々のロマンスがあふれる「ロマンチックなまち」として再興させるための看板商品を造成。飛鳥時代、白浜温泉を最初に見出した有間皇子は白浜の娘と恋に落ちたという説話があり、白浜温泉の重要な歴史として語り継がれている。

昭和には、白浜はハネムーンのメッカとして人気を博した。そんなロマンスの思い出の地として人々の記憶に残る白浜を、再び「ロマンチックなまち」として売り出していくため、夜空にロマンチックな輝きを放つ「ランタン」と「星空」、愛心あふれる歴史を持つ「白浜温泉」を掛け合わせる。初めて訪れた方に心に残る唯一無二な体験を提供するのはもちろんのこと、再訪されたカップルや夫婦には、もう一度白浜でロマンスを感じていただけるような心ときめく感動体験を提供する。



ランタンイベント

- 実施主体：南紀白浜観光協会 / 白浜町商工会 / 白浜温泉旅館協同組合
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出

観光商品から関係商品へ。何度でも訪れたい、地域を買い支える関係創出型モデル事業

【和歌山県すさみ町】

地域との関わりを持とうとする法人や個人と共に「関係商品」のビジネスモデル造成に取り組む。町長自らの繋がりを駆使したトップセールスで企業を呼び込み、一次産業の過酷な生産現場から学ぶ研修プログラムを第一に、その後関係を深化させていくミニ集会を通して看板商品を造成、地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけを提供する。その中で地域を買い支え、手助けをする関係を構築しながら、地域の課題やニーズと関係人口となる法人・個人の想いやスキルをマッチングするための中間支援機能を形成する。ひいては「企業ポスト」の誘致と「ふるさと住民」の登録を目指す。

〈すさみの消えゆく伝統漁法ケンケン漁×企業との協業開発プロジェクト〉

- 実施主体：すさみ町観光協会 / すさみ町 / 道の駅すさみ
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出



地元漁船に乗船～一本釣り～解体～即日しか食せない食材

「大人の学び場」紀南エリアとEバイクを活用した「楽しく学んでリフレッシュ」持続可能なサイクルツーリズムのためのコンテンツ造成事業

【和歌山県すさみ町、上富田町、白浜町、古座川町】

熊野信仰を育んだ紀伊半島の雄大な自然、交通量の少ない幹線道路や独特の生活息吹が感じられる生活道路など、県南部のサイクリングに適した環境を広域に活用する。ジオガイドや空港施設で活動する人々との交流を通じ、旅行者がより深く地域を理解し学びを得ることで、愛着を持ち、再訪したいと感じるツーリズムを構築する。

さらに、団塊ジュニア、ミドルシニアを対象に地域の起業家をEバイクで訪問し、地域課題や事業展望に触れることで、自らのキャリアに気づきを得られる「セカンドキャリア支援」研修型サイクリングツアーコンテンツを開発する。さらに、ツアー予約を効率的にするためオンライン予約サイトの機能強化を図る。

- 実施主体：紀南エリアサイクルツーリズム協議会 / 紀州くちくまの未来創造機構
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出



滋賀県甲賀市・甲賀忍者に学ぶ自然体験創出事業

【滋賀県甲賀市】

甲賀市は、忍者発祥地として名高く、忍者の里としての代表格。今でも市内には忍者に関連する施設や修行場所などのスポットが残っている。そんな甲賀市で、観光や料理、忍者等の専門家と地元事業者が連携し、忍者の「本当の姿」に迫った文化的な自然体験を造成する。甲賀忍者の修練場であった「飯道山修験道」などが残っており風景の中にはリアルな忍者の痕跡がある。単なるコスプレやアスレチックの延長のようなエンタテインメント要素のものではなく、忍者発祥の地にふさわしい「本当の姿」に迫ったものに仕上げる。

- 実施主体：平和堂 / 甲賀市 / 未来づくりカンパニー
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出



甲賀流忍者自然体験



飯道山修験道

海を活用した新たな関西の周遊クルーズルートの構築事業

【関西国際空港を起点に、淡路島、鳴門、神戸、万博会場 等】

2025年の大阪・関西万博のコンセプトに「海の万博」が掲げられていることから、大阪湾等を活用した観光コンテンツを造成する。万博来場者を始めとしたインバウンドを含む様々な旅行者に対して、海上交通を新たな観光コンテンツとして提供する。関西国際空港や神戸空港～目的地、海峡越えの目的地間等アクセスも兼ねた周遊クルーズルートを構築し、その需要が広域周遊につながるかを検証することで、海上ルートの確保や遊覧コンテンツの造成につなげる。

- 実施主体：近畿運輸局 / 関西観光本部 他
- 活用事業：訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業
(地方運輸局等実証事業)



大阪湾でのクルーズルート造成

淡路島の歴史と自然をめぐる持続可能なバス旅ガイドツアー造成事業

【兵庫県淡路市】

着地型バス旅商品「バス旅あわじプレミアム」を軸に、2次交通としてコミュニティバスを利用し、ガイドがいるからこそ伝わる淡路島の魅力を凝縮したガイドツアーを造成。観光客だけでは見つけることの難しい淡路島の真の魅力に触れる商品を造成する。また、自然や文化等に触れる商品を造成するだけでなく、魅力の最大化を可能とする観光ガイドを育成し、淡路島観光ガイド付きバス旅商品として磨き上げる。さらに、淡路島への理解や繋がりを深め、地域の文化や自然環境に配慮し、観光客と地元住民の相互にメリットのある商品にするとともに、魅力を伝達するガイドを管理・育成する組織を設立し、採用や研修体制の確立・ガイド育成を行う。

- 実施主体：淡路市商工会 / 本四海峡バス / 淡路島観光協会 他
- 活用事業：地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出



バス旅あわじプレミアム

徳島空港を活用した空港アクセスバスの実証運行等

【兵庫県南あわじ市】

- ① 課題となっている淡路島南部への誘客促進として徳島空港を活用する。羽田空港と徳島空港を結ぶ航空便の発着に合わせ、南あわじ地域の主要観光地である「福良」「イングランドの丘」を直接結ぶ空港アクセスバスを実証運行する。
- ② 徳島空港から目的地までの乗継情報等が簡易に検索できる淡路島発着バス検索アプリを整備し、空港アクセスバスで直接行くことのできない他の観光施設や宿泊施設へのアクセス向上を図る。
- ③ 企画乗車券造成や地域内観光施設等及び旅行会社と連携したパッケージツアー商品の開発によるプロモーション活動により周遊促進を図るとともに観光需要検証のためのアンケートを実施する。

※②③については、市独自事業として実施



徳島空港～南あわじ間のバスルートイメージ

- 実施主体：みなと観光バス / 淡路交通 / 近畿日本ツーリスト / 南あわじ市
- 活用事業：地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業「交通連携型」

初秋の奥大和を歩く～県南部東部への誘客～

【奈良県上北山村、天川村、吉野町、曽爾村、宇陀市】

奈良県では、観光客が奈良市内に集中（奈良公園、東大寺等）していることから、県南部東部の魅力を発信することにより、県内全域を周遊させ、宿泊者数の増加を図る。主要ターミナルの1つである大和八木駅を起点とし、そこで観光バスに乗り換え、5市村が推奨するハイキングコース起点まで移動する。ハイキング終了後、地元の入浴施設や道の駅に立ち寄り、地元特産品等に触れていただけるようにする。また、ツアー終了後にアンケート調査を行い、再来訪へとつなげていく。

- 実施主体：奈良交通
- 活用事業：地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業「交通連携型」

京都南部の奥座敷へ～ひとやすみ観光～

【京都府京田辺市】

大阪・京都・奈良の中間地点にあり、鉄道移動も便利ではあるが観光地への二次交通が少ないため観光大都市の「通過点」となりがちな京田辺市に、大阪市内から周遊ツアーバスを運行し、特産品である「玉露」やアニメ関連スポット、歴史遺産などのポテンシャルの高い観光資源をアピールすることにより、観光客を誘引し、交流人口を拡大することを目指す。地域の特産品である「玉露」をPRしていくため、女性客を中心としたプロモーションを行う。さらに、インバウンドの受入が可能となれば、ラッピングバスによる誘客も実施する。

- 実施主体：西日本ジェイアールバスサービス / 京田辺市 / 日本旅行
京田辺市観光協会 / お茶の京都DMO
- 活用事業：地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業「交通連携型」



観音寺ライトアップ&夜間特別拝観

南紀那智勝浦温泉と世界遺産巡りツアー

【和歌山県那智勝浦町】

大阪バス近畿と那智勝浦観光機構の連携により、誘客減少対策として旅行手配企業と業務委託を行い、旅行会社に対する観光地再生の周知と南紀勝浦温泉・世界遺産の熊野古道等に関して滞在時間の増加と地域の周遊性向上を図る。地域が推進する活動に誘致することで、観光客のデータを収集・分析を進め、誘客増加による地域経済の再生を目指す。

- 実施主体：大阪バス近畿 / 那智勝浦観光機構
- 活用事業：地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業「交通連携型」



ツアーポスターイメージ

訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金

- プラスワンナイト事業推進のための関西全域のルートの強化（関西観光本部）
【伊勢～奈良、福井～琵琶湖東岸～伊賀、加太～徳島、若狭～京丹波】
- 通訳案内士によるコアなニーズに対応する高額消費者層向けツアー造成促進事業（関西観光本部）
【有識者会議を経て10府県の中から4エリアを選定予定】
- 万博を見据えた“KANSAI”の食のツーリズム化促進事業（関西観光本部）【北播磨（兵庫県中部）、京都市、滋賀県、福井県】
- 関西観光地づくり支援調査事業（関西観光本部）【関西広域】
- Re-DISCOVER HYOGO 兵庫の魅力再発見（ひょうご観光本部）【兵庫県・摂津、播磨、但馬、丹波、淡路】
- ガイド育成を核とした地域探訪型サイクルツーリズム推進事業（ひょうご観光本部）【兵庫県・淡路島、播州姫路、丹波篠山】
- 自転車による「紀伊半島」の周遊促進事業（奈良県ビクターズビューロー）【奈良県・熊野・十津川村・天川村・吉野】
- 世界遺産吉野を知る見る学ぶ体験コンテンツ造成販売（吉野ビクターズビューロー）【奈良県吉野町】
- 泉州地域におけるインバウンド向けガイドツアーの造成（KIX泉州ツーリズムビューロー）【大阪府南部泉州地域】

地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業

- 「食」コンテンツからの新たな魅力発見！明日香村発・観光キラーコンテンツ構築事業（明日香村商工会）【奈良県明日香村】
- フルーツのまち紀の川周遊化構想～365日フルーツを楽しめる町～（紀の川フルーツ観光局）【和歌山県紀の川市】
- 三尾～京北「ウェルビーイングルート開発」（京都市観光協会）【京都市右京区（高雄・京北エリア）】
- 日本最古の官道“竹内街道”と南河内を学び、体験するツアーの開発（ハウスケアパートナー）【大阪府太子町】
- 有馬温泉クワ・ワーケーション（有馬温泉観光協会）【兵庫県神戸市北区有馬町】
- 薬草を活かしたビューティー＆ヘルスツーリズム事業（神姫トラベル）【兵庫県丹波市】
- 癒しと健康のセラピーアイランド・淡路島～ヘルスツーリズムを核とした淡路島の魅力創出事業（淡路島観光協会）
【兵庫県淡路市・洲本市・南あわじ市（淡路島全域）】

観光客が訪れる拠点整備等

- 日本風景街道、ナショナルサイクルルート、道の駅、みなとオアシス等を核にした観光地づくり
- ほこみち（歩行者利便増進道路）を活用した賑わいのある道路の構築
- 河川を軸に沿線地域のにぎわいを創出する河川ツーリズムの推進
- 道の駅において、「Wi-Fiの整備」「外国人観光案内所認定の登録促進」「キャッシュレス制度」の導入
- 巨大な構造物のダイナミックな景観やインフラ施設の役割やつくられた背景が楽しめるインフラツーリズム等の推進



観光客が訪れる拠点整備



インフラツーリズム（天ヶ瀬ダム）



道の駅（たいじ）

広域観光促進のためのインフラ整備

- 高規格道路のミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化
- スマートインターチェンジの整備促進（※高速道路の平均インターチェンジ間隔は欧米諸国の平地部に比べて約2倍）
- 多様な交通モード間の接続を強化（バスタプロジェクトの推進） 神戸三宮

再びクルーズを安心して楽しめる環境整備

2020年9月に策定された「クルーズの安全・安心の確保に係る検討・中間とりまとめ（国土交通省海事局・港湾局）」及び「クルーズ船が寄港する旅客ターミナル等における感染拡大予防ガイドライン（公益社団法人 日本港湾協会）」（2022年3月に第6版策定）等を踏まえ、再びクルーズを安心して楽しめる着岸施設への対応や受入環境の整備を実施する。

- 実施主体：港湾管理者、民間事業者等、連携：近畿地方整備局
- 活用事業：
 - 国際クルーズ旅客受入機能高度化 / 国際クルーズ旅客受入機能高度化施設整備
 - クルーズの更なる寄港促進を通じた地域活性化事業
 - 公共交通利用環境の革新等事業
 - 海洋周辺地域における訪日観光の魅力向上及び安全安心な再開促進事業
 - 港湾機能高度化施設整備費補助



クルーズ船の入港状況



感染症対策の状況（消毒液の設置）

深日港・洲本港の航路再開に向けた取組

【大阪府岬町、兵庫県洲本市】

- 大阪府岬町と兵庫県洲本市では、両市町を中心とした広域交流の促進と地域の活性化を図るべく、かつて結ばれていた旅客船の定期航路再開に向けた取組を進めている。
 - 2017年度から深日港と洲本港とを結ぶ旅客船「深日洲本ライナー」社会実験を開始。以後、2018年度、2019年度と、3ヶ年連続で同社会実験を運航しており、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、2021年度から再開し、2022年度は6月から11月まで運航を予定している。
 - 岬町、洲本市、港湾管理者（大阪府、兵庫県）、近畿運輸局、神戸運輸監理部及び近畿地方整備局からなる「深日港洲本港航路に関する連携協議会」を2016年4月に設置し、航路再開に向けた課題と社会実験取組について検討を行っている。
- 実施主体：深日港洲本港航路に関する連携協議会（事務局：近畿地方整備局）
 - 活用事業：地方創生推進交付金（内閣府）



深日－洲本航路イメージ



利用者の乗船風景

船名	船種	船名	船種	船名	船種
深日丸	深日港	洲本丸	洲本港	深日丸	深日港
7:41	7:45	8:00	8:55	9:15	10:10
10:04	10:08	10:30	11:25	11:45	12:40
14:48	14:52	15:10	16:05	16:25	17:20
17:15	17:19	17:40	18:35	18:55	19:50

2022年度 社会実験ポスター

【人材で地域をつなげる】

これまで見逃されてきた地域資源を観光コンテンツとして活用していくため、観光地域づくりに従事している者、地域の魅力を良く知る者など、地域のステークホルダーの人材ネットワークを構築する。また、コロナ禍で悪化した収益を改善し、持続性のある観光地域づくりに取り組んでいけるDMOの人材を育成するなど人材で地域をつなげる。

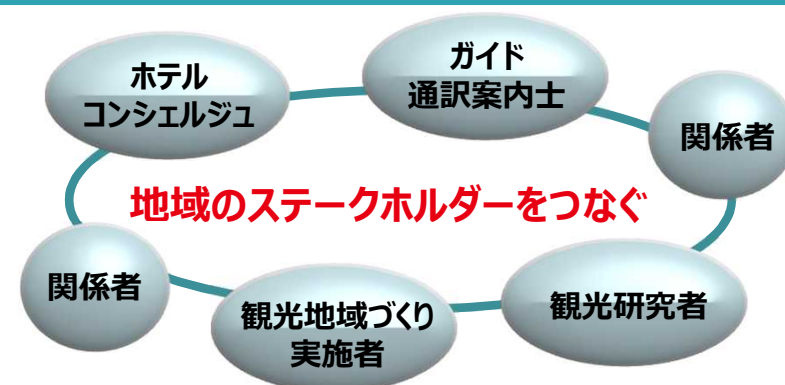
- 地域の観光に関連する様々な人材や業種等を連携させるネットワークを構築する
- 長引くコロナ禍での現地訪問機会の減少によって、喪失している関係者間のつながりやアップデートできていない地域情報の再構築を図る

【2022年度事業】

観光地域づくり人材ネットワーク構築事業

自治体、観光有識者・専門家、交通事業者、民間で観光に取り組む者、さらに、観光以外の業種に携わる人々をネットワークによって連携させ、観光地域づくりを促進させるための地域プラットフォームを構築する。

- 実施主体：近畿運輸局
- 活用事業：観光地域動向調査事業



Withコロナ / Afterコロナの観光地経営戦略研究会

Withコロナ期の観光戦略は、これまでとは違う思考で取りまとめなければならない。一方で、Afterコロナでは日本訪問を希望する海外からの声が届いている。そこで、大学との共同企画で国際的な人の往来が解禁される時に備えて「地域の観光マーケティング主体としてのDMO」と「地域の観光政策を担う行政」関係者を対象とし、今後の観光による地域づくりや地域の活性化に必要な知見を実践者とともに学んでいく。

- 実施主体：近畿運輸局
- 活用事業：広域周遊観光促進のための観光地域支援事業における運輸局実施事業



WEB配信による研究会の様子

“京北エシカルヴィレッジ”構想 ～ギフトエコノミー(贈与経済)の開発による地域貢献型交流の創造～

【京都市右京区京北地域】

京北（けいほく）地域の豊かな森林、農業を生かして若者・よそ者が寄り付く第2のふるさとづくりを目指す。

- ① 地域内の研修施設「あうる京北」等を拠点とし、地域内外の事業者が連携する“企業向けのワーケーション型研修”を造成
- ② 地域通貨（LOGトークン）による経済圏を創出し、地域住民と来訪者のコミュニケーションツールを構築
- ③ 地域コンシェルジュ育成 他

- 実施主体：一般財団法人京都ゼミナールハウス（あうる京北） / 京都市観光協会
- 活用事業：「第2のふるさとづくりプロジェクト」モデル実証事業



拠点：あうる京北 / ことす京都

地域に通う、心を通う、課題解決型ラーニングツーリズム事業

【京都府南丹市美山町】

UNWTOのBTV（ベスト・ツーリズム・ビレッジ）で選出された京都府南丹市美山町で来訪者をまちづくりの協力者（準住民）と捉え、地域課題等を地域住民や課題解決の最前線に立つ事業者と交流しながら学び、企業活動や教育活動と結びつけた、地域密着の課題解決型研修プログラムを開発し、以下の3点の仮説を産学連携で実証する。

- ① 企業、教育研修に特化したプログラム提供は来訪者の再訪意欲を創出し、延泊数増、関係人口増につながり、持続可能な観光地経営につながる
- ② 地域が一体となった事業展開は来訪者の満足度向上につながる
- ③ CRM（顧客管理システム）の運用により、来訪者と持続的な関係が保たれ、来訪者の横の繋がりから創造的なアイデアが生まれる（企業×学生のイベント等）

- 実施主体：一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会
- 活用事業：「第2のふるさとづくりプロジェクト」モデル実証事業



地域密着、課題解決型研修

ホテルコンシェルジュネットワークの活用による観光コンテンツ訴求事業

ホテルコンシェルジュが有する旅行者ニーズと観光地域づくりステークホルダーが提供しているコンテンツをマッチングするための情報交換の促進やターゲットに対する的確なコンテンツ（例：富裕層向けの特別感のあるハイクオリティな体験等）が提供可能となるよう、双方のコミュニケーションを高める場を創出する。

- 実施主体：近畿運輸局 / 関西観光本部
- 活用事業：訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業（地方運輸局等実証事業）



ホテルコンシェルジュを対象としたコンテンツ体験実地研修及びオンライン配信

関西インバウンド交流会開催支援事業

関西のインバウンド関連のキーパーソンが集まり、最新の注目テーマに関する多数のセミナーを開催するとともに60社・団体を超える観光関連事業者の製品やサービスの展示を行う。主催者である広域連携DMOの関西観光本部と連携し、関西インバウンド交流会の事務局運営を支援する。この交流会を通じてキーパーソンの相互交流が深まり、関西のインバウンド事業の発展にもつなげていく。

- 実施主体：関西観光本部 / 近畿運輸局
- 活用事業：広域周遊観光促進のための観光地域支援事業における運輸局実施事業



交流会（ビジネスマッチング）の様子



【情報で地域をつなげる】

コロナ禍で変容している観光行動※に的確に対応するには、様々なデジタル技術等を活用した観光パラダイムシフトやメタバースの導入等を加速させる必要がある。そのために、従来とは違う新たな観光に向けて官民が一体となった「ONE関西」で取組を促進するなど情報で地域をつなげる。

※多人数から個人・少人数、対面サービスから非接触・非対面サービス、宿泊施設での部屋食や個室風呂の要望、パッケージツアーからSIT、周遊バスからパーソナルモビリティへの選択等

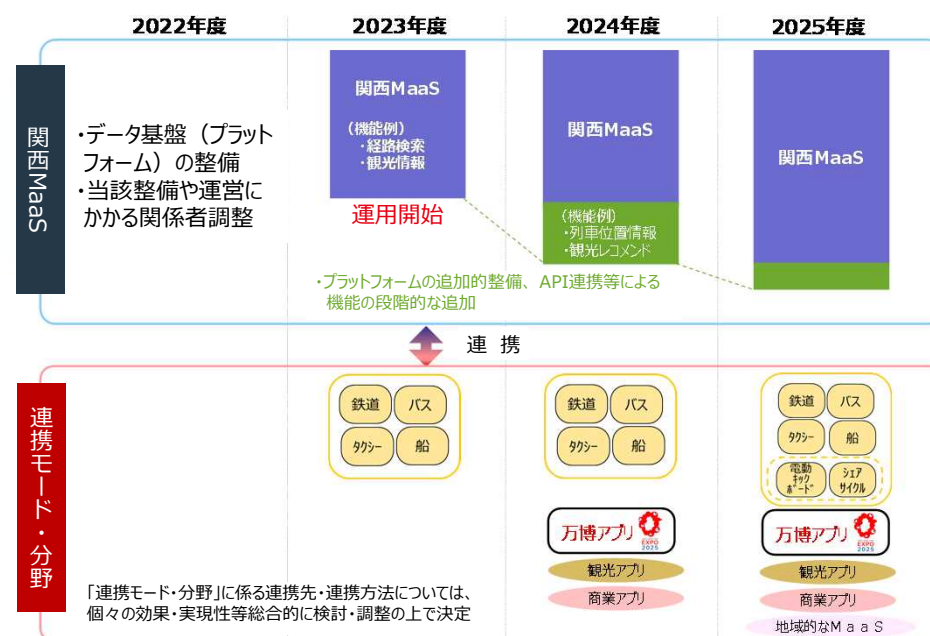
- 個人旅行者が容易に観光情報を入手できて、かつ、移動利便性が高まる「MaaS」の導入促進
- 観光DXの推進や地域資源や観光コンテンツでのXRの導入等
- より少人数の旅行者に対応していくための高付加価値による高単価サービスの提供

【2022年度事業】

関西MaaSの構築に向けた取組

- MaaSは、モード・業種横断的に幅広い事業者間で連携し、広域的に提供されることで利用者の利便が増進。特に関西においては、2025年に大阪・関西万博を控えるとともに、豊富な観光資源を有していることから、広域的なMaaSの活用による効果は大きいと期待される。
- そこで、交通・観光分野を始めとする幅広い業種間での連携を促進し、取組を協同で実施することを目的に、関西の官民による会議体（関西MaaS推進連絡会議）を設置。大阪府副知事、大阪市副市長、関西における国の機関の局長、各鉄道事業者社長、関西経済連合会副会長、大阪商工会議所副会頭、博覧会協会副事務総長、関西観光本部他の役員等で構成。
- 大阪・関西万博が開催される2025年をターゲットとして、関西MaaSの機能の充実、万博来場者の関西各地への周遊促進、様々な交通モードや観光・商業分野等との連携を進めるという方向性を確認・共有。
- 関西MaaS検討会（関西鉄道7社）は、2025年の大阪・関西万博での実装に向け、経路検索、予約、決済の他、運行情報や観光情報などの機能を盛り込んだ関西ならではの便利なMaaSの開発を目指す。

関西MaaSの構築・充実にに向けたロードマップ



関西MaaS検討会資料を基に、近畿運輸局にて作成

メタバースでの訪日外国人を対象としたインバウンド向け観光アプリ「TRAVEL CONTENTS」の情報発信と安全・安心で快適な関西への旅行の受入環境の評価・検証事業

安全情報や交通情報など行政機関が有する情報に加えて、飲食・買い物・レジャー施設・観光施設など民間事業者が運営する情報などを一元化し、訪日観光客に向けて発信する。従来、複数のプラットフォームに分散していた観光客が必要とする情報が一つのアプリに集約され、利便性が高まることが最大の特徴。また、本アプリでは、関西での滞在期間中だけではなく、滞在前の「旅マエ」や帰国後の「旅アト」の段階でも利用できるサービスやお得情報を発信する予定で、関西への旅行体験をより便利で魅力的なものにする。

●実施主体：近畿運輸局 / チームKANSAI

チームKANSAI：関西広域連合 / 関西経済連合会 / 関西観光本部 / 大阪観光局 /
関西エアポート / ユー・エス・ジェイ / 西日本旅客鉄道 / 近畿運輸局

●活用事業：訪日外国人旅行者の受入環境に関する検証事業



Travel Contents APP

デジタルとリアルを掛け合わせた「価値ある非接触観光推進事業」

姫路城では、積極的に先端観光（AR/VR）を推進してきたが、訪日外国人によるVRを活用した観覧推進に苦戦している。コロナ禍において、観覧手法に制限を受ける中でも、最新のデジタル技術を活用することで、今までにはない、新しい姫路城の観覧スタイルを開発し、世界各地からさらに注目を集めるような新しい価値観による観覧体験の提供により、インバウンド需要復活につなげる。

●実施主体：近畿運輸局 / 関西観光本部

●活用事業：訪日外国人旅行者の受入環境に関する検証事業



■VRスコープ： <https://www.himejicastle.jp/vr.html>

■音声ARプラットフォーム（Auris）： <http://auris-ar.com/>



専用アプリを現在の門に合わせると、攻撃されるような映像が見られる。



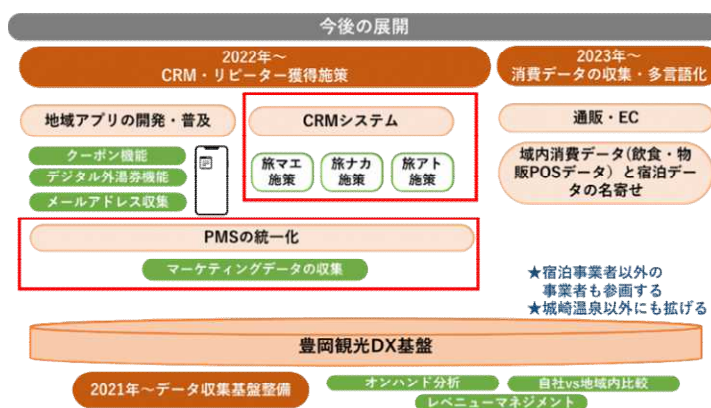
動画のコレクション機能やARポイント、デジタルマップで周辺の観光オススメポイントを見る事が可能。

“まち全体が一つの温泉旅館”のDX化実現事業

【豊岡市城崎温泉】

豊岡市、豊岡観光イノベーション（DMO）、城崎温泉の事業者が、城崎温泉全体の宿泊予約情報や宿泊プラン在庫情報等を自動集約し、データを図表化・可視化して観光地マーケティングに活用するシステム「豊岡観光DX基盤」を構築した。この「豊岡観光DX基盤」により、地域全体あるいは個別の宿泊施設において、現時点と前年同時点の宿泊予約状況を比較することができ、また個別の宿泊施設が自施設と地域全体の予約状況や予約単価を比較できるようになる。豊岡市や豊岡観光イノベーションは、タイムリーに必要な施策が打てるようになり、個別の宿泊施設はレベニューマネジメントが可能となる。それだけでは“まち全体が一つの温泉旅館”のDX化は実現しない。次のステップとして、顧客との関係を維持・向上させるためのCRM機能が必要である。

城崎温泉の宿泊施設においてPMS（宿泊の管理システム）の統一化を進めるとともに、豊岡観光DX基盤を活用したCRM（顧客管理）システムを開発することにより、消費行動を把握し、その情報をもとに「顧客との関係を維持・向上させるためのアクション」を導き出して実行していく仕組みを構築する。2023年度以降には、飲食店、物産店のPOSデータも観光DX基盤に集約し、地域を訪問する顧客データを統合的に分析し、より成果につながる施策が打てる仕組みまで発展させることを視野に入れてシステム開発を行う。



システム拡大・展開のイメージ



「ふらっと、リトリートTOYOOKA」冬のキャンペーン

- 実施主体：豊岡観光DX推進協議会
- 活用事業：持続可能性の高い観光地経営の実現に向けた観光DX推進緊急対策に係る実証事業